

西多摩医師会報

第234号 平成4年6月



新執行部発足

目 次

	頁		頁
1. 会長就任にあたって	松原貞一 … 2	6. 文芸随筆その他諸事百般	
2. 副会長就任にあたって	足立卓三 … 4	雑記 原の病院	山田正哉 … 10
	宮川栄次 … 4	モデル	堤 次雄 … 12
3. 理事会報告 その1	広報部 … 5	靈魂とは何かについて (III)	
4. 理事会報告 その2	広報部 … 8		近藤 肇 … 14
5. 生涯現役		7. 医師会日誌 ……………	17
回想録 その(十七)	小泉新策 … 9	8. お知らせ ……………	18
		9. あとがき	明田川修生 … 19

会長就任にあたって

松原 貞一

新会長としてご挨拶を申し上げるに当り、先づは3期6年の長期に渡り会務の舵をとられ、内には定款改正をはじめとして各種機構の改革や組織作りに盡力され、外にあっては東京都医師会、会長会、代議員会、西多摩医療懇、推進協等多くの場でユニークな意見を吐露され、会の評価を著しく高められた西村前会長のご努力に、深い敬意と心からの感謝を捧げる次第であります。

従来、会員による直接選挙により選出されていた会長役員が、新定款のもと今年度より、会長は地区選出役員の互選により選出され、3月の総会で選任という形をとることになりました。当然のことながら新定款も、社団法人としての責任とその為の事業の規定であり、会員相互の親睦や互助といったものは、原則として出来ないことになっています。多くの他医師会のように一行政地区一医師会であれば、会員相互や行政間との理解も容易で協力も得られ易いのですが、当医師会のように夫々区々の体制をもつ9つの市町村を包括する一つの医師会としては、定款の趣旨を尊重し地域医療に責任を果たす事業の計画遂行に当っては、何よりも会員の理解と協力がなければ出来ません。地区の活性化が叫ばれ、各地区は夫々に会合を持ち力を合せて地域医療の為努力を続けてはいますが、限られた人数では集まる情報も限られ、努力にも限度があります。数は力なりといわれるように、西多摩医師会全体となるとA会員数は160名となり、多摩地区でも大きな医師会となります。この大きな医師会全体で英智や衆智を集めることが出来れば、新定款が目的とした地域社会に対する責務の遂行も、不可能ではない筈です。その為何より大事なことは、会員相互に知り合うこと、理解が得られること、即ち親睦にあります。会員がお互いに話し合う機会が多くなれば、情報の伝達収集も容易となり、お

互いの理解が出来協力が得られれば医師会が活性化され、医師会が活性化されれば、ひいては地区の活性化にも継がる筈であります。顔も知らず名も知らずでは、いかなる名案創意も実を結ぶことが出来ません。松原村から青梅市に及ぶ広大な地域格差をのり越えて、お互いに理解し合える機会を作ることを、新定款を定着させる為の第一歩としたいと考えています。

地域格差と共に、世代間の意識格差も見逃せない問題を含んでいます。家庭医の高齢化が問題となっている現代、当医師会では若い会員の入会が多く、平均年齢57.3歳は都内の医師会には類をみない所です。

30歳代	16人	60歳代	53人
40 "	33 "	70 "	19 "
50 "	32 "	80 "	7 "

良きにつけ悪きにつけ古い陋習を引きづっている60代以上、ジュニアとも呼ばれる30代40代、そしてその中間の50歳代に、世代格差の壁があることも否めません。21世紀に向い地域医療を担う若い30代40代の会員が、会全体の3分の1にもなりました。この若い世代の先生方は、これから先この地区で医業を営むに当り、夫々に抱負や希望があり夫々に意見を持っていることと思います。幸いにして今回の改選で、若い世代の先生方が多数役員としてご活躍頂けることになりました。10年20年後の医療医業を見越して、今から多くの人間関係を築き会務の経験を積むことも大事な事であると思います。健康が国民の最大の目標となった現代、保健や医療こそが最高の職種であるべき筈であるのに、先細りの感を否めない医業に再び光をとり戻すべく、世代交代の糸口を作り、若い世代の先生方のご活躍の場を作りたいとも考えています。

各種健診事業、訪問診療を始めとした在宅医療、予防接種の個別化、生活習慣改善事業、平日夜間救急体制と、時の流れと共に医師会が取り組まねばならない問題も多々あります。来年を予定している当医師会創立80周年記念事業も意義あるものとしなければなりません。

高水、瀬戸岡、西村各名会長の後では、何とも頼りなく見劣りの感は否めないと思いますが、役員を始め会員の先生方のご指導ご協力を頂き、会務執行の為出来る限りの努力を致したいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。



松原会長

副会長就任にあたって

足立卓三

私もこれで、故瀬戸岡先生、西村先生、それに今回の松原先生と三代の会長の下で医師会の仕事をする事になりました。いずれも行動力のある立派な先生方で、私としては大変勉強にもなりますがプレッシャーもあります。

初めて理事になったのは10年程前でしたが、良いか悪いかは別として理事会の雰囲気がかんなに自由なものになるとは想像も出来ませんでした。ただ、自分としては「理事会はこうあるべきだ」と信じて努力してきた方向に全体の流れが進んできているので、これからも松原会長の御意向を汲みつつより一層、特に若い先生方に活発に発言、行動して貰えるようにしていくことが松原執行部の一員である私の役目と思っております。

いずれにしても、それぞれの立場でお互いに頑張ることが大事ですので、執行部は勿論のこと、会員の皆様の御協力をお願いします。



足立副会長

宮川栄次

松原新体制の下、副会長に就任しました、宮川です。会長を全面的に補佐し、会員の皆様の御要望にこたえられるように微力ながら、頑張る決意であります。

定款も新たに、若い理事も数名参入し、医師会に新風が吹き込んだ気がします。

元より西村会長の六年間に亘る功績は大有りです。我々は、この足跡を次いで、より一層の努力をしなければなりません。自治体との対応も、誠実に協調性を以て対応していきたいと思えます。若い先生方は、医師会ばなれがあるように言われていますが、会員にとってどの様な医師会であるべきか、魅力ある医師会とは何かを暗中模索の最中です。よろしく御指導の程、お願い申し上げます。



宮川副会長

理事会報告

— その 1 —

4 月定例理事会

平成 4 年 4 月 21 日 西多摩医師会館

1. 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会報告要旨

◎寝たきり老人在宅総合診療の施設基準にかかわる承認申請等の提出について
— 前号に「お知らせ」として既報 —

◎R I C (労災保険情報センター) について

R I C は労災診療費の支払にかかる事務について、国の委託を受け、労災指定医療機関との契約に基づきその支払事務を代行して行うとともに、不支給診療費の補償互助活動等も行う。

問い合わせ：03(5684)5511

◎准看卒後教育講習会の開催について

平成 4 年 7 月 5 日

午後 1 時～ 4 時 30 分

於：日本教育会館・一ツ橋ホール

受講無料

◎老人訪問看護ステーションの設置手引について

問合せ先：都衛生局健康推進部高齢保健課在宅保健担当

03(5320)4368

◎関東甲信越静学校医協議会について

日時：8 月 29 日(土)午後 1 時 30 分より

於：パレスホテル 千代田区丸の内 1-1

(松原会長)

2. 報告承認事項

(1) 入会会員について — 承認 —

(2) 平成 4 年度青梅五日市保健所各協議会委員推薦について

(3) 保育園医推薦について

— 別掲資料 1-1 —

(4) 保険指導整備委員推薦について

(5) 各種委員会委員について

— 別掲資料 1-2 —

(真鍋理事)

【別掲資料 1-1】

平成 4 年度 保健所委員推薦について

〈五日市保健所〉

(1) 「保健福祉サービス調整推進会議」

桂木 真	変更 (前任者 今川 武)
------	---------------

(2) 「地区母子保健対策協議会」

明田川 修生	再
横田 博	再

(3) 「健康づくりフォローアップ指導事業」

鈴木 修	再
小机 敏昭	再

〈青梅保健所〉

(1) 「地区母子保健対策協議会」

高野 和章	青梅市立総合病院	再
川辺 隆道		再
林 良樹	青梅市立総合病院	再

(2) 「在宅難病患者訪問指導事業連絡会」

市原 靖		再
江本 虎雄		再
荒巻 武彦		再
野本 正嗣		再

(3) 「保健所保健福祉サービス調整推進会議」

大堀 洋一		再
-------	--	---

(4) 「健康づくりフォローアップ事業」

川辺 隆道		再
吉野 住雄		再
石田 信彦		再
野本 正嗣		再

平成 4 年度 保育園医推薦について

(平成 4 年 4 月 21 日理事会資料)

〈奥多摩町〉

保育園名	保育園医	備考
古里保育園	三上 恒正	再

【別掲資料1-2】

西 多 摩 医 師 会

() 内 担当副会長 ◎印 担当部長 ○印 担当副部长 ☆印 主担当 ★印 委員長

		部 名	担 当 理 事	委 員 会 名		
副会長 宮川栄次 会長代行 松原貞一 副会長 足立卓三		学 術 部 (宮川)	◎大堀洋一・○石田信彦	学 術 部 委 員 会		
		地 域 医 療 部 (宮川)	◎進藤 淳・○大堀洋一 公衆衛生担当 ☆大堀洋一・伊藤敬一 学校医担当 ☆高水松夫・真鍋 勉 産業医担当 ☆伊藤敬一・唐橋善雄	地 域 医 療 委 員 会		
				緊 急 ・ 休 日 診 療 委 員 会		
				公 衆 衛 生 委 員 会		
				学 校 医 委 員 会		
			産 業 医 委 員 会			
		広 報 部 (宮川)	◎明田川修生・○玉木一弘	会 報 編 集 委 員 会		
		保 險 部 (足立)	◎唐橋善雄・○清水章三郎	社 保 指 導 整 備 委 員 会		
				国 保 指 導 整 備 委 員 会		
		経 理 部 (足立)	◎清水章三郎・進藤 淳・高水松夫			
	総 務 部 (足立)	◎真鍋 勉・○玉木一弘	医 事 紛 争 処 理 委 員 会 (電話苦情処理 110番)			
			保 健 所 単 位 地 区 責 任 者			
			福 祉 委 員 会			
医 道 審 議 会 委 員			(委員長) 平林信隆・(副委員長) 後藤 伸・桂木 真・			
西多摩地区医療保健衛生協議会「医療協」			宮川栄次・伊藤敬一・大堀洋一・川辺隆道・小机敏昭・			
地 区 名	青 梅	福 生	秋 川	羽 村	瑞 穂	日の出
地 区 長 名	足立卓三	宮川栄次	米山秀雄	松原貞一	高水松夫	川崎健一郎
副 地 区 長 名	大堀洋一	林 実	清水章三郎	真鍋 勉	丸野仁久	湯川文朗

各 部 分 掌 図

(平成4年5月現在)

委 員 氏 名			
★大堀洋一・石田信彦・稲垣壮太郎・押切 勝・栗原琢磨・坂本保巳・鈴木孝寿・田代 洋 玉木一弘・野本正嗣・諸角強英・渡辺良友・横田卓史			
明田川修生・植田 稔・大嶽栄二・川辺隆道・木野村幸彦・堤 次雄・湯川文朗・吉野住雄			
宇田東平・大久保憲二・片平潤一・小机敏昭・清水章三郎・鈴木孝寿・高木 直・玉木一弘 萩森正紀・中村 武・山川淳二			
★大堀洋一・伊藤敬一・川辺隆道・小机敏昭・高水松夫・林 実・湯川文朗・横田卓史			
★高水松夫・内田萬次・川辺隆道・栗原琢磨・込田茂夫・瀬戸岡俊一郎・蓼沼 翼・真鍋 勉 道又正達・百瀬真一郎・吉野住雄			
★伊藤敬一・井村進一・唐橋善雄・高木 直・野村有信・福井谷祐一・森 和胤			
★明田川修生・天野了一・石井好明・片平潤一・小机敏昭・込田茂夫・瀬戸岡俊一郎・高水松夫 玉木一弘・道又正達・山川淳二			
唐橋善雄・石田信彦・伊藤敬一・馬詰良比古・大堀洋一・川口卓治・小林杏一・込田茂夫 瀬戸岡俊一郎・高水松夫・田代 洋・玉木一弘・堤 次雄・野口清美・野本正嗣・葉山 侃 百瀬真一郎・山川淳二・山口太平・山田英敬・米谷豊光			
秋山静夫・天野了一・荒巻武彦・稲垣壮太郎・尾形永太郎・奥野 仁・押切 勝・木野村幸彦 栗原琢磨・斎藤信幸・笹本隆夫・鈴木民子・瀬在由美子・田中穂積・田村啓彦・成田 章 浜松輝美・波田野洋夫・松田三樹雄・田辺良友			
足立卓三・後藤 伸・進藤 淳・堤 次雄・宮川栄次・米山秀雄			
(青 梅) 足立卓三・(福 生) 宮川栄次・(五日市) 明田川修生			
木野村幸彦・小林康光・堤 次雄・葉山 侃			
高水松夫・林 実・進藤 淳・湯川文朗・横田卓史			
五日市	奥多摩	檜 原	
明田川修生	川 辺 隆 道	内 田 萬 次	
栗 原 琢 磨	—	—	

(8)

No. 234

- (6) 新規会員年会費査定について
(清水理事)

由のため会議に出席できない会員または理事の表決については、「他の構成員を代理人としてする表決」を原則とし、「書面をもってする表決」は例外的な趣旨であることを確認する。

(松原会長)

3. 協議事項

- (1) 定款第26条に関する確認について
— 下記の通り理事会として確認 —
定款第26条に関する確認事項
定款第26条においてやむを得ない理

理事会報告

— その2

5月定例理事会
平成4年5月7日 西多摩医師会館

1. 報告事項

- (1) 「推進協報告」
老人保健施設「時寿会」開設については申請者と面談の上、当医師会地域医療委員会の答申に基づき、要請を行いたし承認とする。
- (2) その他

伝染性紅斑（リンゴ病）について
現在、登校停止疾患として治癒するまで、登校を停止する必要があるが、最近の知見では、紅斑出現時点ではすでに感染性が薄いと判断され、都医師会と都教育長間で、登校停止としなくともよいとの申し合せがあった。

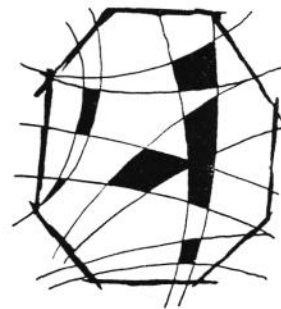
(松原会長)

2. 報告承認事項

- (1) 入会会員について — 承認 —
- (2) 委員会委員推薦について
— 別掲資料1-2 —
(真鍋理事)

3. 協議事項

- (1) 平成3年度事業報告につき承認を求め
る件 — 承認 —
(真鍋理事)
- (2) 平成3年度収支計算につき承認を求め
る件及び監事監査報告 (清水理事)
— 承認 —
- (3) その他
◎「医師会80周年準備委」及び、会長諮問委として「医師会あり方委」を設置することとし総務部がその任に当る。
(松原会長)



生涯現役

回想録 その(十七)

小泉新策

前回の原稿に間違えて飛ばせてしまったので改めて真相を記述することとする。終戦後杉並から耳鼻科を標榜して五日市で開業をした稲垣本治と云う先生があった。終戦後新憲法下で初めての西多摩医師会総会が定宿の青梅保健所が都合悪く、青梅第四小学校で開催した。その日の議題ではなかったが都議会議員選挙に医師会から誰か出さないと保健所長からの要望があり誰彼の取り沙汰され初めて居た。稲垣氏が立候補したい。医師会に会館設立準備金が毎月請求保険の額に比例して集めて積み立てて居り漸くに四十万円になったばかりの時、この金を都議選運動資金に借用して立候補したい。四年後には百倍の四千万円にして返済する。それまで会館の建設を延ばしておいて拝借したいとの申出であった。会員の中にはこの話に動揺した人達も幾人か見受けられた。余りにも話のもって行きようが上手であったからでもある。反対意見も出た。先づ日の出の並木先生が最先きに反対に立った。次に近藤肇先生である。彼は慶應出の軍医上りの若さ溢るるピカピカ男、弁舌さわやか、この二人の反対演舌で稲垣立候補説は消滅した。都議には医師会は関与せずと云う結論となった。次の総会が五日市保健所で新築利用最初と云うことで行われた。これは定時総会であったように思われる。何しろ医師会にも問題があって戦中よりの会長山田正礼先生が翼賛会関係でパージになり次の福田實氏が不慮の事故で死亡され、残任期間を横田寿照先生にやってもらって居たのが改選期という総会であったが、数日前、山田先生のパージが解除となったので、これの報告はなされて一同喜んだが改選期であるのに立候補の申出がしてなかった。祝酒が出て一杯気焔で青梅福生方面のバスで来られた方たち大方が引き揚げて行った。勿論時の議長は誰であったか、多分地元で、今川定次郎氏であったように思うが、一同引き揚げるのを見送ってからのことである。稲垣氏が会長候補として立候補の申出をした。当時は定款がさだか

でなかったので大慌てで対策をたてようとしたが何ともならず山田票少数で稲垣氏が西多摩医師会会長に当選することとなり以来一期間波乱万丈の医師会会長就任ということになったのである。

都会議員には誰彼の取り沙汰はあったが医師会は関与しないこととなった。

突然松原出身の大先輩である高橋秀雄氏が私の所へ尋ねて来た。都議選のことであった。高橋秀雄氏は元慈大薬理教授協坂教授の処の書生でもあり日赤にも勤務経歴のある、私の学生時代助言を屢受けた恩義ある先輩薬剤師であった。高取寛一氏を都議に出したいので協力してくれとのことであった。彼等は学友との事であった。私は五日市町警察の公安委員であったので選挙には関与出来ない。そこで彼が地元民を煽りたてて、運動を起こす中心人物となり有利な方式の助言をすることを暗黙のうちに確約する運びとなり、西多摩運送を挙げて西多摩中への連呼運動で対抗馬も出ずに楽々当選という運びとなった。高取氏には任期中大部働いてもらったが一期だけではそうは活動足跡を遺せるものではない。私の処では有床診療所に反対の五日市在住医師があり、彼の妻君が七十四名の反対署名書を都に出してあって書類が下積みになっていることを長尾青梅保健所長から知らされたので、高取氏にこの実情を話して私は東京へ帰るより方策なしと云うと、彼は早速その書類を取り戻して来て五日市へ根を下してくれと懇望された。当時私は代々木富ヶ谷で、夜間開業慈大助手で居たので帰れば帰れた。今の井上病院の上の岡で当時茅野原の駅前に井上荘六病院予定地の札が立って居た所である。当時を回顧するに感無量である。富ヶ谷は四年間の生活の根拠地であったからである。感慨深いものがある。これから西多摩医師会という立場から稲城氏との対立の立場が出現したのであるが、以下順次概略を今後記して行くつもりである。

文芸随筆その他諸事百般

雑記

原の病院

山田正哉

“原の病院”とは如何なる病院なのだろうか。医師会名簿を詳細に見ても彼様な病院名を捜しても見つけることは出来ず、会員の先生方は何処に存在するのだろうかと考えるだろう。

然しながら“原の病院”は今も立派に機能を発揮し、多くの患者を診療して地域医療に貢献している。

戦前は夏期になると必ず伝染病が猖獗し、特に朝まで元気に遊んでた子供が夕方グッタリとし、高熱を発し、痙攣を伴い、数回の緑便を見るのみで一夜にして不帰の客となる親にとっては魔の病気として恐れられた“疫痢”別名を“はやて”と云ったものがあつた。この疾病も昭和28年を境として殆ど診ることもなくなった。これ等伝染病を収容してたのが、“原の病院”で、子供にとっては“原の病院”に入院することは、恐ろしき存在であつたことは事実で、そこには死への恐怖があつたからだろう。

その病院とは、現在の“阿伎留病院”の前身である。

現在伝染病の収容先は青梅市立総合病院に統一されているが、その以前は福生病院、阿伎留病院も隔離病棟を所有して患者を収容していた。

昔は伝染病が発生した場合には、各町村が設置した隔離病舎に患者を収容し、その地区の医師が治療していた。私の子供時代には隔離病舎があり火葬場も近くにあつた。

西多摩郡医師会の医政調査部記録の中に、昭和5年当時内務大臣諮問「腸チフス死亡率低減に関する対策に付其の会の意見を諮ふ」事項に関する件の中に、市町村伝染病舎又は隔離病舎の有無、建築年度、坪数、設備、現在の状況の報告に、次の如く報告されている。

これを表示すると下記の如し。(別表)

備考中に聯合病院に転送と記載されてるのは、現在の阿伎留病院の前身即ち、“西秋留村外四ヶ町村共立病院”で、平井村に開業され当時の医政調査部委員菊池卯太郎先生の調査報告があるので記載するが、この調査書を読まれると“原の病院”の呼称が理解出来ると思う。

西秋留村外四ヶ所町村立病院調書

一、位置： 広き畑地の中央にありて病院組合たる五日市町、西秋留村、増戸村、平井村、多西村の人家へ最近十丁余、最遠一里半余あり。北の玄関口は福生五日市間の府道に接し、東は西秋留平井間の里道に約二丁余、西は西秋留大久野の間の里道に約五丁余、南は拝島五日市間の五日市鉄道病院前の停留場に約五丁にて達す。

一、病院開設： 大正十四年四月十日敷地千六百四十一坪、本館建坪四十二坪六合一勺、木造板張、屋根スレート、床下コンクリート。

第一号病室： 建坪九十八坪、木造板張、屋根スレート、床下コンクリート、病室八ヶ、定員二十四人。

第二号病室： 建坪百二十三坪八合一勺、木造板張、屋根スレート、床下コンクリート、窓全部金網張にて蠅の侵入を防ぐ。病室七ヶ、患者収容人員四十人。

一、外科室： 内部コンクリート塗、化粧煉瓦張にて消毒に適す。

其他の建物全部木造板張、屋根スレート又はトタン、床下コンクリート、窓硝子戸。

院長住宅及使丁住宅日本造り。

一、消毒方法： 完全器械器具完備、患者寝台鉄製、外に東へ約十丁余丁放れて一町四ヶ

村共有の火葬場あり。敷地百十坪、火葬竈一ヶ設備完全。

一、職員： 院長医学博士一人、看護婦九人、事務員一人、使丁一人、賄方一人。

一、専ら伝染病患者を收容するも伝染病患者の入院なき時は、普通患者も入院せしむ。普通外来患者も診療す。往診はなさざる規程なるも公務の余暇町村有力者及其紹介に依る患者に好意的に往診す。

一、薬価、其他医師会規程の約三分の一、

外来患者診察料一町四ヶ村組合外の患者は医師会規程の通り。

一、患者運搬上の関係： 共立病院より組合町村の人家に至る最近十丁弱、最遠一里半余、其内五日市町深沢は一里半余にして五日市町館谷より約二十余丁間は悪路にて自動車を通せず、重症患者は輸送に堪えざるべし。担架或は人力車にて輸送すると雖も患者の予後に大なる悪結果を来すべし。増戸村網代は一里以内なれども荷車通行さへ困難なる悪路

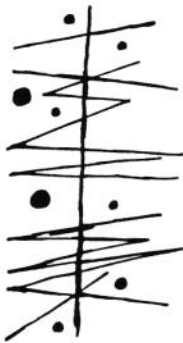
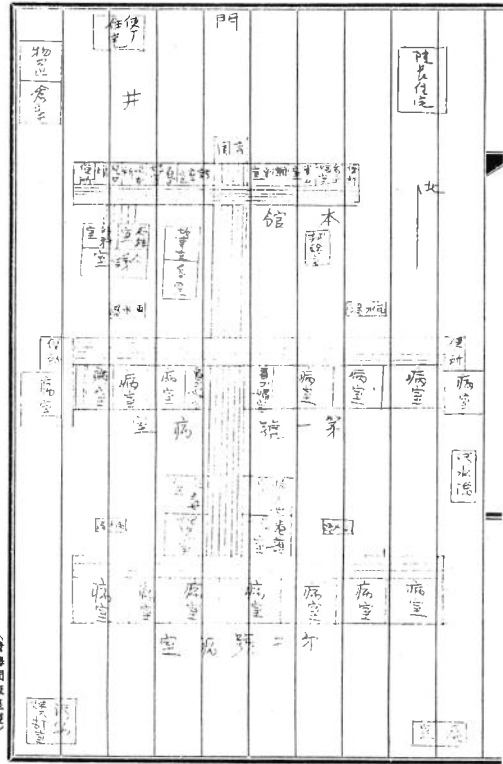
<別 表>

町 村 名	建築年度	坪 数	開設度数	診療日数	備 考
三 田 村	明治 42 年	52.50	な し	な し	
古 里 村	30	57.25	1 回	26 日	
水 川 村	30	45.00	1	67	
福 生 村	33	85.75	1	3	
西多摩村	34	59.00	な し	な し	
吉 野 村	31	21.00	3	271	
大久野村	31	20.00	な し	な し	
調 布 村	31	41.87	な し	な し	但し患者5名ありしも 聯合病院へ転送
東秋留村	大正 13	12.00	な し	な し	但し患者1名ありしも 聯合病院へ転送
成 木 村	11	36.00	な し	な し	
青 梅 町	6	55.70	1	263	
小 宮 村	明治 30	21.00	な し	な し	
戸 倉 村	30	26.66	3	90	
霞 村	大正 11	20.70	2	119	
小曾木村	12	42.22	1	63	
檜原村第一	明治 31	33.00	な し	な し	
〃 第二	31	44.50	な し	な し	
〃 第三	大正 7	28.50	な し	な し	
概 況 附 記	以上の如く各町村とも隔離病舎を有し設備完全とは謂ひ難きも稍使用に堪ゆ 他に1町4ヶ村立の聯合伝染病院あり設備稍完全のものと認む				

十余丁間は患者の輸送は担架に依る外なし。要するに道の遠近に関せず悪路を輸送する時は、初期の患者にあらざる限り普通の入院患者より約二割の死亡率を増すものと認む。依て腸チフスの疑ある患者は強制的に公費を以て入院治療し、腸チフスにあらずと決定せば退院せしむるか或は希望に依て引続き入院治療し、腸チフスと決定せば其儘入院治療して病菌の伝搬を防ぎ、且つ患者の死亡率を低減せしむるを最善の策とす。

一、共立病院の費用は府伝染病補助金、薬価手術料、入院料等を以て支弁するも不足を生じたる時は組合町村病院組合分賦金を以て支弁す。

一、別紙共立病院の略図を添ふ、実測にあらず故に室の大小其他実物と相違するも略想像するに足るべし。



お詫びと訂正

第233号（平成4年度5月号）中次の如く訂正させていただきます。

P13：右側下より2行目
記正済は訂正済

P13：右側下より1行目
御依頼候也は及御依頼候也

モデル

堤 次 雄

新緑の季節は好きだ。若葉の瑞々しさと、その勢いは、老うつわたしの心を何だか浮き立たせ、気力を与えてくれる。来年もまたこの季節に巡り合えれば。と、思いながら公園を歩いていた。

ぼん。と、肩を叩たかれ振り向けば、この町の隠れたる写真家の松麻良さんだった。

「背中を丸めた佝しげな後姿は直ぐに老体

とわかりましたよ。いい話があるんです。」と彼は笑顔で言った。話とは、グループの写真展をやるのでモデルになってくれないか。とのことだった。わたしは余りに突飛な頼みに驚いて直ぐに断った。まだ枯淡の境地になく、年輪に相應の品格もない半ば老人である。モデルになれば、それこそ物笑い、晒しものになるだけだ。これが断りの理由だった。

松麻良さんは、写真家の某氏が、俳優の宮沢りえのヌード写真で大当たりをとった事を意識してか、前に三人の若い女性にモデルを頼んだのだが、その芸術性を理解してもらえず、女性達に素っ気なく断われたとのことだった。「今回のモチーフは半ば老人と決めました。あんたは、ぴったりです」と、彼は勢いこんで言った。

「半ばというと、とかく安物、銭失ない。役立たず、のイメージが確かにあります。僕はね、半ば老人をゲージツの域まで持っているのが狙いです。これはまだ誰も手をつけていない分野です。成功すれば世の多くの半ば老人の励み、救いになります。さらされるのが嫌だと言いましたね。友禅をご覧くださいよ。

加賀の清流に晒しにさらして、一級品になるんです。尤っとも、あんたは一級品とはいきません。が、縁あってこの世に顔をだしたのですから、死ぬまでに一度は世のため、人のためになつたらどうですか」なぜ、半ば老人がゲージツか、世のため人のためか、よくわからんが、彼の早口の口調は可成り迫力があつた。

松麻良さんは、普だんは温厚で寡黙な人なのだが、こと、ゲージツとなると突然変異がおこり、興奮し多弁となり、粘り強いのである。わたしは、逆に気が、ミジン子のように小さく弱い。勢いに吞まれ流されて首をたてに振ってしまった。

彼は、わたしの気が変わらぬうちに、その日に三脚をかつぎ、アルミ箔を張ったざるを小脇にしてやってきた。ざるは反射鏡とのことだった。彼はファインダーを覗きながら、「もっと目を大きくあけてくれませんか。たったそれだけ」苦りきった顔で、「ちえっ」と舌うちし、「固くならず自然体でいきましょう」と、大きな声をだした。

親からの頂きものの目である。別に開けるのを、けちってるわけではないのだ。スポンのチャックのように自在にはいかんである。

ゲージツ家も苦勞されたが、わたしの顔も暫くは引きつっていた。

写真展の当日、わたしは気になり会場に向いた。トイレの前につい立があり、松麻良

さんの作品はその近くにあつた。

わたしは、つい立に隠れて客人の反応をみることにした。二人の若い女性が出てきた。

彼のも一つの作品、感動する乙女、は旨いと誉めていたが、半ば老人、には、ちらっ、と横目をくれただけで、隣の麦垣さんの作品、動物の目とマドンナ、の前に行った。

鯖、カメレオン、もぐら、の目とマドンナの変な取り合わせであつたが、アイデアは面白いと思つた。

こん度は二人の初老の男性がきた。はね町の品樫さんと、丘の上の松種さんだつた。

この二人は、元から口が悪い人達だ。

「おや、これは地蔵さん前に住みついている老体じゃないかな。アップはいかん。しみ、吹き出もの多くて汚いね」と品樫さん、

「何やら目つきも……」くうっ、くうっ、と妙な笑いをした松種さんと二人で奥の方に消えていった。わたしは頭にきた。文句を言おうと思つたが、目まい、が起こり何も言えずじまいであつた。

続いて、ステッキを持った一人の恰幅のよい中老の男性が現れた。あつ、あれは藤ヶ台で撃剣の道場を構える野ぎう流の師範、荒地又エ門さんではないか、剣豪は写真の前に立ち、じつと見ていたが、「あんたはなあ、ここに出る顔じゃないよ。世の中を茶化して渡ろうなどと、ふざけんじゃない」と、ぼそぼそ声で言つたかと思うと、「やっ」と、鋭い掛声を発し、持つてるステッキで写真の胸板を一撃されたのである。

わたしは、つい立の陰で、もがき苦しみ、「すぐ救急車あ」と、叫ぼうとするのだが、どうしても声がでなかつた。

月の光が、わたしの寝床を青白く投射していた。わたしは、床に坐つて額から胸に流れる汗を寝巻きの袖でぬぐつた。

この頃は、ばかに筋書きのはっきりした夢を見るようになった。それも、後で想いだし独り、にやにやっ、と、する類いではなく、すべてが、被害と恐怖ものばかりである。

わたしの老うつは、更に進行しているようだ。

靈魂とは何かについて (III)

— あなたは、どう死を迎えるか —

近 藤 肇

第三章 輪廻とあの世

3-1 輪廻転生

「古事記」や「日本書記」の神話や民俗学の研究結果から考えると縄文時代から日本人には、「死後の世界」があったという。古代日本人はあらゆる生命のあるところ植物も動物も、またその他天地万物すべて生命があり生命を生命たらしめているものは魂であると信じていた。そして、死をこの魂の肉体からの分離と考えたのであった。「あの世」は天国とか極楽地獄の区別はなく、太陽の沈む西の方にあるのであるが、しばらく家の近くの山にいて魂が清められてから祖先のいるあの世へ行く、そしてその後この世に帰還するのであるとされていた。

日本仏教の主流であった浄土教の教えは、信仰を得た人は極楽浄土へ行くことができ、またこの世に帰ってきて念仏の行者に生まれ変わり、多く人を極楽浄土へ導くという輪廻転生である。

この『輪廻転生』の思想は、もともとインドのバラモン教から出たもので、バラモン教の哲学書「ウパニシャッド」の中に出てきた言葉で梵語サムサーラ (samsāra) の訳である。魂が流転し、転生することで、人は生まれて死し、死して又生まれ変わる思想である。仏教が輪廻説を取り入れたのは、紀元前三世紀ころアショカ王がインドを統一して大帝国を建てたマウリア王朝のころと考えられ、この頃に業報輪廻の考え方が定着されたと云われる。仏教の輪廻はこのインドの思想を取り入れたものであり、この世たる三界（欲界、色界、無色界）とあの世たる六道（地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上）の間で生死を繰り返すのであるとしている。「阿修羅（アスラ）」とは空中に住んで神々と戦うもの、「天上」は天にいる多くの神々のことである。輪廻ではあの世は安楽な世であるとは

云えないのであった。だから、早く安楽の世に行くには輪廻転生の中に早く解脱することによって輪廻の輪からの脱出をはかるのが理想とされ、その解脱の境地に達したものを「仏陀」と呼ぶのであってこれが仏教との最終目的とされたのであり、一般の人々は仏教の信仰により解脱に近づき極楽往生を願ったのである。この輪廻転生の思想は仏教思想の根幹にある。

3-2 輪廻体験

「死後の世界」から「この世」に生まれ変わったという人の話は昔からある。こういう生まれ変わった人の話があるから輪廻思想が生まれたのであろう。

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）著の「勝五郎の再生」（小泉八雲怪談奇談集：河出書房新社、1988年）に書かれている話の中に、江戸末期の文化2年の出来事で奉行所の公式記録に書かれているという話がある。

武州多摩郡中野村に住む源蔵という百姓の次男勝五郎少年は自分の前世は、程窪村で6才の時死んだ藤蔵で、お母さんは伴四郎という人と再婚したがぼくはその次の年6才の時疱瘡に罹って死んだ、そして2年後にこの家に生まれたのだと言った。この話が広く伝わって大名松平親山が調査を命じた。勝五郎を連れて行く道筋でタバコ屋を見るとこんなものなかったと言う、村人に聞くと以前はタバコ屋はなかったと言う。伴四郎の家へ行くと、確かに津造という息子がいて2年前に疱瘡で死んだと言う。勝五郎少年が言ったことは16項目ほどあったが間違いなくその通りだった。勝五郎は死んでから生まれ変わるまでのいきさつを良く覚えていて語った。死んだ後、土の中に埋められた、暗くていやだから自分の家に戻りたいと思ったら空を飛んで自分の家に戻った、そしたらみんなでお葬式をやっていた、念仏の声が聞こえ線香の香りがした、

気がつくとおじいちゃんに手を引かれて、源蔵の家の辺りに来ると、おじいちゃんは、「ここが今度お前が生まれ変わる家だよ、今度こそお前長生きするようにね」と言ったというのである。

輪廻体験としての生まれ変わりを自覚する人の話や霊媒や超能力現象についてヨーロッパ・アメリカでは超心理学(Parapsychology)としての心霊現象として研究されている。イギリスでは、ケンブリッジ大学を中心に心霊研究会(SPR)が生まれていて、1882年から今日まで、輪廻体験、霊能力や霊界との交信など人々の色々な体験を集め、事実や研究結果について機関紙、会報を発行発表している。アメリカでも1885年にアメリカ心霊研究会(ASPR)が設立され、その後も1962年デューク大学に超心理学研究所、1969年には超心理学会が組織された。日本でも1963年に超心理学研究会、これは1968年に日本超心理学会(JSP)と改組されて現在も毎月研究会が行われている。

3-3 「あの世」の思想

あの世についてインド人と中国人では受け止め方が違っていた。インド人にとって人間が死んだ後、あの世の経験を「輪廻」によってまたこの世の生を繰り返すことは苦しみであったから、人間には解脱のため修業が必要であった。断食やヨガの修業などがあるがそれらはそういう目的のものである。ところが中国では輪廻の思想を死んでも再び生きられるという喜びとする解釈も存在した。それで、この世を楽しむ思想が強かった。そのことが房中術、養生術とか神仙術などの不老長生法が人々の生活に浸透し現代に至るまでいろいろの健康法、媚薬や不老長生の薬の伝統として残っている。中国ではあの世意識は弱いとされていたが、祖先の祭りは盛んである。中国風の葬式は賑やかで、泣き女を先頭にした長い行列は祭りのようである。

仏教が中国に入って「あの世」即ち浄土思想が説かれたのではあるが、浄土思想は中国より日本の仏教思想のなかに根づいた。

奈良時代の浄土思想は多く祖霊追善にあっ

たが、平安時代、特に栄耀栄華を極めた藤原道長時代の前後になると、釈迦没後2000年の1052年が近づき末法到来の恐れや、政敵の怨霊おんりょうの影へのおびえもあり、厭離穢土、欣求浄土おんりょうの「あの世」への願い、来世信仰が盛んとなった。地藏菩薩による地獄からの救い、天上での救いを願う弥勒菩薩の信仰、阿弥陀如来による極楽浄土への信仰である。

3-4 王朝期、中世の死霊観

日本の中世の人々の間には、貴族階級などの特権階級の間での激しい権力闘争があり、他人の栄達を妬んだり、憎んだり、非人間的な手段を弄して社会から葬ったり、反目しあう醜い社会であり、また、そのほかに繰り返された動乱、戦乱、それは源平の争乱であり南北朝の対立の内乱であり、室町幕府後半の応仁・文明の乱とそれに続く戦国時代などであったが、それらによって家々や社寺などの貴重な国家的財産や人命が無残に破壊、殺傷された。そういう時代にあって、人々は罪惡観や世の無感情から良きあの世を望み、また、怨霊の恐怖に悩まされたりしてそれからの救いを求めようとしていた。他人をのろう呪文じゅもん、のろいから逃れたいための呪文を唱える『呪詛』が行われた。のろい的手段には、のろい釘、のろい人形などがあったが、発掘によってのろいの木簡やのろい人形が多く現れている。こういうのろいの時代にあっては、のろいから救われようと巷の聖や僧、巫女による呪術まじないに頼ってお破いおこぼいをしてもらっていたが、心理的に苦しみ病苦に悩んだ場合、悪鬼邪靈、怨霊が人に憑ひら衣して、もののけに憑ひらかれたとした。

平家物語に、清盛の福原遷都直後、もののけに憑かれた平清盛の死の情景が書かれている。「死人のシャレコウベどもが、いくらという数も知らず、庭にみちみちて、上になり下になり転び合い転び退き、端なるはなかへ転び入り、中なるは端へ転び出づ……………やがて熱病にかかり、身内の熱き事火の如し……………比叡山より千手井の水を汲み下し石の舟に湛えて冷やし給えば、水夥しう沸き上がりて程なく湯にぞなりにける……………」と。

王朝文学にはのろわれて狂い死にしたり、相手を悩ませたりする光景がいくらかでもある。南北朝の動乱の後、足利尊氏が六十余州にわたり一寺ずつ寺院を建てた理由のひとつには亡霊の怨念に対する回向供養があった。菅原道真の怨霊を晴らすために北野神社が創建されたのと同じである。

怨霊の怨念が“たたり”となるとされ、この世で満足しなかった人の怨念が残って“たたり”となるとされたり、何か不幸なことがあったり病気をしたりすると、何かの“たたり”とされ、時には祖先の“たたり”といわれてその霊の供養をしたり、呪術師に頼んでお祓いをしてもらう。このことは現代社会にも残っており日本の習俗として根づいている。

日本文化の誇るべきものに能がある。その能は怨霊に対する鎮魂の演劇であるとされる。

能には怨霊への鎮魂が込められているものが多くある。世阿弥の能「井筒」は伊勢物語の在原業平を題材にしていて、業平の怨霊が現れる。「シテ」が現在と幻の二役を演じ、過去の人の怨霊となって現れ「ワキ」に恨みを言うがワキがこの世は所詮幻の世、そのような怨念は捨てるが良いとシテを諭す。

これは「夢幻能」と称される能の形式で、これには怨霊鎮魂の思想がある。

3-5 シャーマニズム

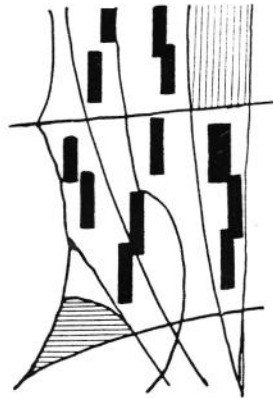
霊魂のたたりを恐れ、あるいは霊の加護を頼むような場合、特殊能力者の力を借りる信仰、習俗、宗教をシャーマニズム (shamanism) というのであるが、特殊な能力の人が、「神霊」「精霊」「死霊」との接触、交渉をすることによって、予言、病気治療、葬儀などをする宗教の形式である。特殊な異常的心理状態において特殊能力を発揮する人によって行われるものである。そういう宗教的技能ある人または職業の人をシャーマンと呼び、シャーマンは心理学的にトランス状態という恍惚たる自我を喪失せしめた異常な心理状態となって神や霊のお告げを伝える。

日本でも全国各地の民間信仰の中に残っており、中でも東北地方には地藏信仰が盛んで、青森県下北半島の恐山の地藏講はイタコと呼

ばれる巫女を中心とする盛大な祭りが行われることで有名である。

シャーマンがカネや太鼓などをならし踊りまくってを呪文を唱えながらトランス状態になるとその魂がその身体を離れて天上、地上、地下の三界を飛び回るという魂の離脱、移動の型と、神霊、精霊、死霊がシャーマンに憑衣する憑衣型とがある。

日本のシャーマニズムのことが最初に書かれたのは、三世紀末に編集された中国の三国志の一つ『魏志』に書かれた当時の日本についてであって、女王卑弥呼によって統治されていた「邪馬台国」について紹介の書たる『倭人伝』である。卑弥呼はかなりの年配であったが結婚せず、混乱せる国々を巫女として呪術の力によって国内をうまく統治していたが、そのシャーマンとしての霊力に人々が卑弥呼を絶対者として奉っていたことによって平和が保たれていたという。古代史研究によると、巫女として呪術のある女性が政治的に上に立つことが多かったが、最高の巫女とされる女性が神のご託宣を行って政治を行った。古来、女性には特殊な異常的心理状態であるトランス状態になりやすい素質があり超自然的な能力があるとされていた。現代においても呪術師シャーマンには女性が多い。



あ と が き

今月号より会報編集委員担当理事を命ぜられました、明田川です。

新会報編集委員を代表して若干の意見を述べさせていただきます。

医師会の会報ですから、従来通り伝達事項は、当然必要ですが、その他に会報を広く読んでもらう為に、前任者の方々のご意見を参考に、又ニューメンバーと共に企画に創意工夫をもって、以降の事柄に頑張ってみようと思っています。

1. 重要情報の速報性
2. 医師会に在籍するメリット
3. 会員間の親睦をはかる記事
一般会員の紹介、地区だより
同好会短信等
4. B会員コーナー

等々を持って前向きにと一同思っております。

会員の先生方には、原稿の依頼をお願いに上がる事になるかと思いますが、その節は、よろしく願い申し上げます。

尚、新理事全員の写真を表紙に使用しましたが、清水先生所用の為、のっていませんので申し添えます。

明田川修生



「宮川副会長と編集委員一同」



社団法人 西多摩医師会

平成4年6月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 明田川修生

天野了一 石井好明 片平潤一 込田茂夫 瀬戸岡俊一郎
高水松夫 玉木一弘 道又正達 小机敏昭 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

自然のめぐみを最先端の技術で活かす——ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目



ツムラは、ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目により、高齢化社会の深まりつつある現実の治療に貢献しつつ、漢方製剤の科学的な実証を通じて、21世紀に至る長寿社会の治療手段としての役割をはたしていきたいと願っております。

 株式会社 **ツムラ**
東京都千代田区二番町12-7 千102

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



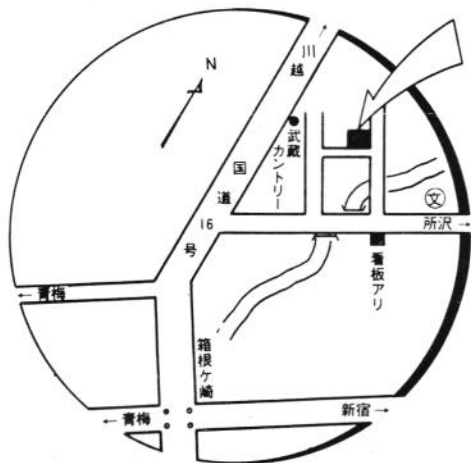
臨床検査のパイオニア
保健科学研究所

本社 千240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1861(大代表)

仙台支社 千983 仙台市宮城野区廣町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)

期待と信頼にこたえて23年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

健康の輝きをひろげる。



株式会社 **ビー・エム・エル**

BML

本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(代)
地名研究所・〒350 埼玉県川越市南1-8-1 TEL.0492-32-0111(代)

応援します! ひとりひとりの笑顔めくらし。

1打席1打席、つねにその瞬間を大切にしながら確実に
得点に結びつけていく。みんなで力をあわせて——。
そこに笑顔がひろがって、さらに大きな力になります。
たましんは、そんなみなさまの暮らしの
応援団になりたいと思います。



だから

[ファミリー・リーグのたましん]



スズケンとはTOTAL MEDICAL SUPPLYを目指します。



健康。すべての人の願い。

人々のしあわせを支える健康。
スズケンは、薬一粒の意味の重さを
大切にして、誠実ひとすじに
たゆまぬ努力をつづけてまいります。

医薬品総合商社
株式会社 **スズケン**

本社 東京都中央区東日本橋3丁目
TEL 03(796)12331 千代田

●スズケンのセールスマンは全国100余ヶ所の営業所でみなさまのお世話になっております。